様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年５月３０日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：19520549
研究課題名（和文）仏教海外開教史の研究

研究課題名（英文）A study on the history of overseas propagation by Japanese Buddhist sects

研究代表者
中西直樹（NAKANISHI NAOKI）
筑紫女学園大学・文学部・准教授
研究者番号：20412687

研究成果の概要（和文）：本研究は、戦前期に仏教教団各派が実施してきた海外開教事業の実態を解明するため、関係する資料を収集整理して資料集を刊行することを目的とするものである。明治以降に仏教教団各派の実施した海外開教事業は、ハワイ、北米、南米、朝鮮、中国・台湾、南洋諸島や樺太・シベリアなど広い地域にわたり、関係する資料も膨大な量にのぼる。過去三年間の研究においては、その内のハワイ、北米、南米についての調査研究を終え、資料集を刊行した。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to investigate the actual condition of overseas propagation carried out by each Buddhist sect in the prewar period. The collection and arrangement of relevant documents and data was a crucial part of the research process. The overseas propagation by Buddhist sects after the Meiji era covered an extensive area including Hawaii, North America, South America, Korea, China, Taiwan, the South Sea Islands, Karafuto and Siberia, hence the massive amount of reference materials. The research of the last three years focused on the survey of Hawaii, North America and South America, and the project was completed with the publication of the collected documents and data.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２００８年度	600,000	180,000	780,000
２００９年度	600,000	180,000	780,000
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・史学一般
キーワード：移民史・植民地・比較宗教学・仏教史・異文化交流

1．研究開始当初の背景

(1)先行研究の状況　従来の仏教海外開教に関する研究を整理すると、①ハワイ日系移民に対する開教活動を対象とするものと、②アジア方面における植民地伝道に関するものの二つに大きく分類することができる。

前者①の研究は、異文化との接触のなかで教団組織や仏教思想がどのように変質し、土着化していったかを問題とするものであり、後者②の研究は、戦前の植民地における日本人進出の出先機関として、仏教の果たした役割を明らかにしようとするものであった。

そのなかには、優れた先駆的研究もあり、北米・南米・アジア方面の研究も広がりをみせつつあるものの、いまだ十分な研究の蓄積がなされているとはいいがたい状況にある。

(2) 研究停滞の原因　従来の研究では、ハワイあるいは朝鮮・中国といった、個別の地域を対象としたものであり、仏教教団の開教事業をトータルに対象とし、その実態を明らかにしたものはほとんどなかった。

このように、仏教教団の海外開教事業の研究があまり進まない理由の一つには、対象となる資料が入手困難であることをあげることができる。

仏教の海外開教事業は、地域的にハワイ、北米、南米、朝鮮、中国・台湾、南洋諸島や樺太・シベリアなど、広い地域にわたって展開されてきたことから、これに関する資料は膨大な量にのぼる。しかし、その資料は一部の研究機関に分散されて保管されているもののほか、宗派機関や現地の開教区事務所・別院・布教所、あるいは元開教使とその遺族らによって個人的に所蔵されている状況にある。

(3) 資料集刊行の必要性　仏教海外開教事業の関係資料は、一般には、その存在さえも知られていないものが多い。またこうした理由から、資料そのものが散逸し失われていく場合も少なくない。

そこで、ひとまず刊行された文献資料を中心に主要なものを収集することとし、さらに、収集した資料を資料集として刊行することを企図したのであった。

2．研究の目的

(1)日本仏教史の観点から　近代以降の仏教教団は、日本近代社会の進展なかで、次第にその社会的な影響力を低下させ現在に至っている。

このため、仏教教団が近代社会において果たした役割は、ともすれば見落とされる傾向にある。しかし、近代以降も寺院は地域社会の結びつきの中核的存在として機能し、教育・福祉など幅広い領域で新たな社会的事業も展開してきた。

特に近代社会の展開のなかで、その時代状況に対応した教団改革と新たな事業展開を主導してきたのは、海外で開教事業に従事した僧侶たちであった。つまり、近代以降の海外開教史の実態解明は、日本近代仏教史を論ずる上で、重要な意味を有していると考えられるが、従来の研究は余り進展していない。

そうした日本仏教史研究からの観点が、仏教海外開教事業を研究課題とした第一の目的であった。

(2)移民史の観点から　近代以降には、多くの日本人が移民や植民などとして海外に進出していったが、その際に必ずと言っていいほど、僧侶・開教使が同行し、海外に日系人の拠点を築くために大きな役割を果たしてきた。

近年、日本人移民に関する研究が大きく進展しつつあり、学会組織として、日本移民学会が設立され、移民史に関する資料集も数多く復刻復刊されている。このように、移民史研究への関心が高まりをみせている研究状況にあっても、移民たちの精神的な拠り所となった宗教については、あまり研究がない。移民史関係の資料集からも抜け落ちているのが実情である。

そこで、仏教開教史の第二の目的として、あまり知られていない海外移民たちの宗教に基づく精神的紐帯や精神的いとみを、明確にすることを企図していた。

(3)その他の観点から　仏教は、キリスト教・イスラム教等に比べて、土着の宗教に対して極めて柔軟な対応をとりつつ伝播してきた宗教と言うことができる。

仏教は、前近代にアジアにおける儒教・道教・神道等と融合しつつ伝播してきたが、近代に入り、キリスト教圏の南北アメリカに伝播していくなかで、その教団組織、宗教的立場をどのように変化させていったのか。この点を明らかに把握できるような

資料を提供することで、比較宗教学、異文化交流の研究にも資するものとしたいという目的があった。

さらに、今回の研究では扱うことはできなかったが、アジア方面への侵略に仏教教団がどのように対応していったかを明らかにするという目的もあった。そのことを通じて、仏教者・仏教教団のアジア各国に対する戦争責任の一端を明らかにできると考えたのである。

3．研究の方法

(1)資料収集の方針　仏教海外開教史に関する資料には、刊行された書籍・冊子のほか、教団の記録、開教使の手記やメモ、写真など様々なものが考えられる。記録された言語としても日本語のほか、現地の言語で書かれたものが存在し、所蔵機関も国内外もわたっている。

本研究は、時間や労力の点を考慮して、ひとまず、国内において所蔵されているものを中心に、日本語で出版された資料の収集に当たることとした。また、時代としては、特に保存が急務と考えられる戦前の資料を中心とした。

(2)資料収集の方法　資料の収集にあたっては、まず国立国会図書館、大学等研究機関の図書館を中心に資料の複写収集を行った。

次に仏教各宗派の本山宗務所や、元開教使やその遺族との協力を得て、資料調査・収集のための作業を進めていていった。その過程で、海外における開教区事務所・別院・布教所、開教使に所蔵されていることが判明した資料については、連絡をとり、原本又は複写の提供を求めることとした。

年次計画としては、初年度の2007年にハワイ方面、2008年に北米方面、2009年に南米方面の資料を中心に収集した。

(3)資料集の刊行と解題の執筆　上記の方法により収集した膨大な資料のなかから、主要なものを不二出版株式会社から「仏教海外開教史資料集成」として刊行した。

刊行にあたっては、資料の解説と仏教教団の海外開教事業の歴史の概要を論述した「解題」を執筆することとした。これの執筆にあたって、掲載した刊行文献だけでは事業の全貌が把握できない点があるため、当時の仏教系新聞雑誌から関係の記事を収集することにもつとめた。

こうして、解題では、近代日本仏教史や各教団が置かれた時代状況のなかで、海外開教のもつ意味を明らかにするようにした。

4．研究成果

研究成果は、不二出版株式会社から刊行された「仏教海外開教史資料集成」にまとめられている。

2008年にハワイ編（全6巻）、2009年に北米編（全6巻）、南米編（全3巻）を刊行した。これにより、南北アメリカで近代以降に仏教教団が実施してきた海外開教の実態解明の研究は飛躍的に進展するものと考えられる。

また、そのことを通じて、上記「研究の目的」で述べたように、日本仏教史、移民史、比較宗教学等の研究の進展にも資することになるであろう。

また、本書巻末に掲載された「解題」は、これまで余り研究対象とされてこなかった海外仏教開教史の先駆的な研究となり、今後の研究の発展に大きな刺激を与えることになると考えている。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔図書〕（計３件）

①中西直樹，不二出版，仏教海外開教史資料集成（南米編　全３巻），2010，1488

②中西直樹，不二出版，仏教海外開教史資料集成（北米編　全６巻），2009，3340

③中西直樹，不二出版，仏教海外開教史資料集成（ハワイ編　全６巻），2008，2264

6．研究組織

(1)研究代表者

中西　直樹（NAKANISHI NAOKI）

筑紫女学園大学・文学部・准教授

研究者番号：20412687

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：